

「教育実習体験レポート」

[公立中学校 国語]

今回の教育実習では、様々な重要なことを学ぶことができた。このレポートでは、その中で特に学ぶことが多かった授業関連について述べていく。授業に関連することで、私が大きく学ぶことができたのはグループワークの利点と欠点と教科指導である授業の中で行う生徒指導だ。

まず、今回の実習で行った授業形式について述べる。今回の実習では、教科指導担当の先生がグループワークを授業の基本として置き、ノートをとることはせず、ワークシートとパワーポイントのみで授業を進める形の授業を行っていたため、その形に準ずる形の授業を行うこととなった。そのため、全授業でグループワークを用い、最大で50分授業のうち35分以上をグループワークに費やす授業もあった。その中で、グループワークについて重要なことが学べた。まずはそれについて述べたのち、今回の実習で学べたグループワークの利点と欠点についてまとめる。重要なことはグループワークの目的だ。グループワークを生徒に向けて行うとき、重要なのが「グループで」「考える」ことを経験させる、ということだ。グループの中で役割を持たせ、協力して課題を解決する、という行動を授業の中で行うことがグループワークの最も大きな目的であると実習期間を通じて考えられた。グループワークの目的がずれると、個人で考える生徒やグループの中で働かない生徒が生まれてしまう。そのために、グループで考えやすい課題設定をしなければならないということを学ぶことができた。そこから、実習期間中に学んだグループワークの利点と欠点をまとめると、大きなこととして生徒の意欲を良くも悪くも大きく変える、ということだ。従来の教え込む形の授業であれば、生徒の意欲は授業をする側にはそこまでの影響はなく、規定された路線をたどる授業として50分を活用しきっていたと考えられる。それに対して、グループワークを授業の軸に置き、生徒が自主的に挙げた質問があればアドリブ的に扱い授業の進捗をも生徒に一部任せるような授業形式では、いかに生徒の意欲を上げるかが重要となる。生徒自身が出された発問に対して「なぜだろう？」と疑問に思う、または「考えたい」と積極的にグループワークに参加するような発問ができれば、その授業は生徒にとって印象に残りやすく、生徒のためになるようなものになると考えられるが、逆のことになれば生徒のワークは進まず、壊滅的な状態になることは想像に難くない。それがグループワークの利点と欠点だと考えられる。

次に学べたのが、授業の中の生徒指導である。授業の中で、配布物を渡されたときにお礼のやり取りをする、正誤問わず発表した生徒に言葉をかける、そういったやり取りの中で、生徒の社会性及び積極性を授業の内容とともに学ぶことができる、ということを実習校の先生から教わり、また自分の授業の中で学ぶことができた。漢詩の音読の際に礼の言葉をかけたいつもはグループワークに参加しない生徒がその授業は自分から疑問を挙げたことがあった。それは授業の中で生徒が自発的に意欲を示したものであると考えられる。

このように、今回の教育実習ではグループワークを軸にした授業を通じて様々なことを学ぶことができた。実習校がとても平和でおとなしい学校だからできたことではあるが、それも実習校の先生方が何年もかけて築いてきた校風のおかげでもある。教員の方々がそれを目指し努力してできるようになったことであると考えられるが、私は今回の実習を通じて得られたことをさらなる生徒のためになる授業づくりの参考にしたいと考えている。